OpenAI DevDay 2026：知財・法務ガバナンスの新常識



プロンプト規制のみ



単なる生成

自律行動するエージェント（継続的エージェント）

プラウザや業務アプリを介して自律稼働



ガバナンスの再設計：権限分離・人間の承認・履歴保存

AI進化に伴う法務・知財リスクの質的変化

- **「単なる生成」から「自律行動するエージェント」への移行**
  システム操作権限を持つためプロンプト規制のみの統制では不十分。
- **「学習利用なし（No Training）」と「データ保存なし（No Retention）」の混同は禁物**



No Training
(学習利用なし)



No Retention
(データ保存なし)



不正監視ログや状態保持によりデータが残る。



- **契約上の「権利譲渡」と「法定著作権の発生」は別問題**



契約上の権利譲渡
(Contractual)



法定著作権
(Legal Copyright)

人間の創作的寄与が乏しい生成物には著作権が成立せず権利侵害リスクも残る。

今すぐ企業が取り組むべきガバナンス対応

- **最小権限原則と人間の承認ゲート (Human-in-the-Loop) の構築**



契約締結やコード統合、出願などの高リスク行為には必ず人間の承認を挟む。

- **人間の寄与とAI履歴を証明するプロバナンス (Provenance) 基盤の整備**



後日の善明者性や著作権立証のため、使用モデルや人間の修正履歴を一括保存する。

Gemini Notebook